

宇宙×イスラエル×私

首都大学東京大学院
システムデザイン研究科
航空宇宙システム工学域
修士2年

猪瀬 裕士



先日、非常に貴重な機会を頂いた。毎年世界各国で開催されている、国際宇宙会議(以下、IAC)に参加するといったものだ。2015年の開催地はイスラエルのエルサレム。国際会議に参加するという経験だけでなく、普段行くことのできない国に足を踏み入れる興奮も同時に味わうことができた。ここで私が何を見て、何を経験してきたかを少しでもお伝えできればと思う。

IACは宇宙開発計画および学術研究成果の発表の場として、学術セッションをはじめ、世界各国の宇宙関連機関・企業・団体による展示も行われる、世界最大規模の宇宙関連会議である。毎年秋(10月頃)に開催されており、2015年はエルサレム、遡るとトロント、北京、ナポリ、ケープタウンと世界各国で開催されている。

私はこの会議に研究成果の発表をしに行ったわけではなく、あるプログラムのメンバーとして参加した。それは宇宙航空研究開発機構(以下、JAXA)が募集する「国際宇宙会議(IAC)学生派遣プログラム」というものだ。このプログラムの概要を2014年のものではあるが以下に記す。

「JAXAは、IAC 2014および国際宇宙教育会議(ISEB: International Space Education Board)が主催するIAC学生プログラムに参加を希望する学生を募集し、学術セッションへの参加や世界各国の宇宙関連機関・企業・団体による展示の見学、あらゆる宇宙分野の専門家や他国の学生との交流などを通じて、宇宙活動における最新情報を直接得るとともに、宇宙関連分野における自分の研究・活動の成果を披露する機会を提供します。」

この会議にはJAXAだけでなく、NASAを始めとする海外の宇宙関連機関からも同様に学生が派遣されており、国際学生ゾーン(以下、ISZ)と呼ばれる、学生が主役

のスペースでの活動を通して交流を深めることができる。
その活動の一つがISEBアウトリーチ活動であり、今回のメインイベントでもあった。

ISEB アウトリーチ活動は、将来の宇宙活動を担う現地の子供達と、宇宙教育活動を共にし、宇宙に関する理解を深めてもらうものである。この活動は JAXA の担当となっており、活動の内容、準備、舵取りまで一任されている。つまり現地の子供達、協力してくれる他の機関の学生の期待も背負ったプレッシャーのかかる活動なのだ。

我々はその期待に応えるために、真空実験、宇宙スケールクイズ、ミウラ折り体験、宇宙飛行士模擬体験の4つの活動を用意した。結果的には大成功であったが、始まる前には、言語の壁、文化の違い、教育環境の違いなど不安要素ばかり気になっていた。そんな不安を一瞬にして吹き飛ばしてくれたのは子供達のエネルギーだった。国や年齢やバックグラウンドをも飛び越える力が宇宙にはあるのだとこの活動を通して私は学ぶことが出来た。



真空実験を楽しむ子供達

他にも ISZ での学生プレゼンテーションといった活動も経験した。ISZ は学生主体のスペースなので、学生が自身の研究を発表する機会も用意されている。しかし、JAXA の学生チームは日本の文化、日本の宇宙技術を紹介するといった発表が恒例となっている。書道、珠算、武道といった日本の文化と宇宙技術を組み合わせ、劇として披露したところ、会場も大いに盛り上がった。



JAXA プレゼンテーションを終えてメンバーと共に

こういった貴重な経験の連続がこのプログラムの魅力である。

このプログラムの募集は、JAXA 宇宙教育センターの HP (<http://edu.jaxa.jp>) で毎年3,4月ごろ行っている。応募資格としては

1. 満20歳以上満30歳以下の日本国籍を有する大学生又は大学院生
2. プログラムの派遣期間全日程の参加が可能であること（ただし、フライトやプログラムの関係で出発日、帰国日が前後する可能性あり）
3. 英語でのコミュニケーションが可能であること（英語で自分の研究内容を説明・報告でき、意思疎通が図れること）

以上の条件を満たせば、文理専攻を問わずに応募することができる。

学生プログラムとしての活動だけでなく、研究発表を聴いたり、企業ブースを見学したりする時間も十分に用意されている。また、世界最大規模の会議ということで、著名な研究者や宇宙飛行士の方も数多く会場に足を運んでいるため、宇宙を志すものにとっては夢のような空間であろう。興味のある方には是非チャレンジして頂きたい



野口聡一 宇宙飛行士との記念撮影

この会議では多くのことを経験出来たがそれ以外でも、イスラエルという国を深く知るといふ貴重な経験をすることが出来た。日本ではイスラエルに関して、ネガティブな情報ばかりが届きやすく、危険というイメージが先行しているように感じる。実際、会場は厳重な警備体制が敷かれ安全そのものであったが、会場近くでは襲撃事件が複数起こっていた（事件の全てが現地住民間の争いであり、会議参加者は巻き込まれていない）。

しかしイスラエルは、世界遺産が非常に多く、死海などの観光地も充実している国でもある。今回、少しではあるが観光の時間を頂き、観光地のいくつかを訪れることが



死海観光

できた。普段触れない文化、触れることのできないものばかりで、その全てが、危険というイメージとは程遠く素晴らしく、感動的であった。それを肌で感じることができ、心の底から良かったと感じる。それだけ素晴らしく、新しいものに触れ続けた刺激的な一週間であった。

今回のプログラムで、宇宙についてより深く考え、多くの人と交流することができた。この経験は自分を大きく成長させたと言え、自信を持って言える。また、その国の文化、遺産に触れ、自分の価値観を再構築した経験は自分の財産となるだろう。

この一週間は本当に濃密な時間となったが、これは機会をつくっていただいて得たものだ。次は自分の力でこれを超えるものを掴み取る。それを目指して歩き続けていきたい。